

「食道胃接合部癌における悪性度に関与する腫瘍因子と患者因子の網羅的解析」

のお知らせとお願い

●研究の目的

この研究は、食道胃接合部癌の特徴を解析する研究です。正常細胞の遺伝子がダメージを受けるとがん化が起きます。様々な遺伝子の変化がおこり、積み重なることでがんの発生を促しているといわれています。

今回の研究では、食道胃接合部癌における遺伝子の変化(変異・増幅・融合・欠失・メチル化異常等)を研究することで、将来的にがんの予防や治療のターゲットとして確立していくことが目的です。細胞に対する好ましくない遺伝子の変化に対して治療行うことができれば細胞のがん化を抑えることができる可能性があります。食道胃接合部癌患者さんにとって効果のある新しい治療の選択肢が増えたり、健康な人が食道胃接合部癌になることを予防できたりすることが期待されます。

なお、本研究は、他の3施設(がん研究会がん研有明病院、九州大学消化器・総合外科、九州がんセンター)との共同研究であり、より多くの症例に基づいた研究が可能になります。

●研究の対象と方法

以前に手術・検査等で摘出し当院に保存してある食道胃接合部癌の病理標本/凍結標本や、血液からとった血清を利用させていただきます。この病理標本や血清は、すでに患者さんの病期の診断等や血液データの確認に使用されたものです。この研究では、腫瘍細胞の遺伝子の状態、遺伝子発現の測定のために腫瘍組織や血清からDNA、RNAやタンパクを抽出して使用します。また、腫瘍組織中のある特定のタンパク質を抗体という試薬を用いて染めることで、タンパク質の量を調べます。

●保存してある病理標本を研究に用いることについて

この研究は、個人に適した食道胃接合部癌の新たな予防・治療法を将来可能にするためには重要かつ必要な研究であり、当院に保存してある病理標本及び血清を用いることが不可欠であると、当院の倫理審査委員会により判断されました。

一方、本研究では病理標本の提供者に危険・不利益が及ぶ可能性はありません。その理由は、
①病理標本及び血清を厳重に匿名化して研究を行うので、プライバシーの侵害が生じる恐れがないこと、
②保存してある病理標本及び血清を用いるので提供者に新たな身体的負担がかからないこと

です。また、患者さん等からのご希望があれば、その方のすでに保存してある病理標本等を研究に使用しないようにします。

●利益相反について

本研究計画は、国から交付された研究費(運営費交付金、科学研究費など)によって行われる予定ですが、本研究に携わる全研究者によって費用を公正に使った研究が行われ、本研究の公正さに影響を及ぼすような利害関係はありません。

以上、ご説明した研究に当てはまると思われる方で、当院に保存されているご自身の病理標本/凍結標本を研究に使わないで欲しい、というご希望が有れば、担当医までお申し出いただきますようお願いいたします。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、当院におけるご自身の診療には何の影響もなく、不利益をこうむることはありません。

●照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

熊本大学医学部附属病院 消化器外科

責任者：馬場 秀夫

担当者：中村 健一

住所：熊本市中央区本荘 1-1-1

電話：096-373-5212 FAX：096-371-4378